

ローヤルルブニュース

No.139

発行 ローヤル油機株式会社 2006年4月1日

〒979-0202 福島県いわき市四倉町上仁井田字家ノ前 107-4 TEL.0246-32-6657 FAX.0246-32-6658

Eメールアドレス GSP00013@nifty.com

HPアドレス <http://homepage1.nifty.com/loyal/>

【アルバニヤグリス S】 昭和シェル石油

1. 地球環境に優しい原料を使用した工業用万能グリスで、多くの企業で使用されています。
2. 使用温度範囲：-25 ~ 120 特に機械的安定性の良いリチュームヒドロキシステアレートを使用。
3. 高い品質・性能が要求される電動機の軸受けや精密工作機械の軸受けに最適です。
4. 容量：No.2,3 = 400g ジャバラ (通常在庫品)、2.5kg缶、16kg缶 No.1 = 16kg缶のみ

高崎物語 2

居候の私に課された最初の仕事は、部屋の掃除と洗濯それに勉強とは別に、歴史家・アランバロック著上下2巻の「アドルフ・ヒトラー」の読書だった。昼間勉強や読書に飽きると、下宿の周辺を散歩したり、庭に置いてあったバーベルで遊んだりした。

ある時、バーベルを重量挙げ選手のように頭上より高く上げたとき、弾みで肩より後ろに挙げてしまい、そのまま数歩後退りして隣の板塀に激しく打ち付け、やっとの思いで前に落とすことが出来た。もし、後ろに板塀が無かったら如何なっていたことやら、思いつくと今でも冷や汗が流れる。

時には、学校を終えて帰宅した下宿の娘さんが、私を連れ出して緑町周辺や相撲部屋が集まる両国界隈を案内してくれた。響子という名前だったが、聡明で優しく可愛い人だった。見るもの聞くものすべてが珍しかったので、二人で歩く時間が短く感じられるほどとても楽しいものだった。

夜、勉強が一段落すると決まって行くところがあった。近くの喫茶店だった。

『 両国・緑町 』

た。店内は、割と広く軽やかな洋楽が流れていて落ち着いた雰囲気だった。私たちは、いつも窓際のボックスに座り、お目当てのウイットレスが来るのを待つてコーヒーを注文した。

私は、柔らかな椅子に身を沈めて、京葉道路を激しく往来する自動車のヘッドライトを眺めていた。

両先輩は、コーヒーを運んできたウイットレスに頼んで、ラテン系の音楽をリクエストしていた。私は、初めて聴くトリオロス・パンチオスの甘く切ないメロディに酔いしれた。その曲の中でも、「或る恋の物語」は私の心を揺さぶった。今でも忘れられない一曲になっている。

先程から、先輩同士で何か喋っているのだが、まったく意味不明の言葉で私には理解できない言葉だった。

前に座る藤川先輩が、突然私の方に視線を向けて話し始めた。

「ボータ、ライオガベツシャツテルバトコ、ガワツカ」

「……」
当然だが、珍粉漢粉で何を言っているのかさっぱり解らない。解らないのは仕方ないが、理解したいという気持ちも強かった。 次号に続く。

あとがき

先日、久し振りに近くの喫茶店“防風林”に行った。大好きなバナナジュースを飲みながら、春の穏やかな海を眺めた。春の海は、まるで湖畔の喫茶店から静かな湖を見ているようで、水平線の向こうを行き交う大型のフェリー船が見えなかったら、太平洋の大海原とは思えないほどゆったりしていた。梅や桜の花もいいが、偶には“春の海”を眺めるのもまた乙なものです。